

# わらべうたの伝承に関する研究 I

～かぞえうた「いちじく・にんじん…」を例として～

○川崎治代

川崎有華

塩野谷齊

(佐倉くるみ幼稚園)

(あずま幼稚園)

(立教大学社会福祉研究所)

## 1. 問題意識

近年の幼稚園や保育所において一般に伝承遊びが行われていないことは、周知の事実であろう。伝承遊びには今さら意義を認められないというのなら別であるが、もしそうでなければまことに残念な現状にあるといわざるを得ない。しかし、ならば失われつつあるそれを再び幼児の遊びに取り戻そうとしたところで、すでに親の世代がそれらを知らず、また保育者たちも知らないというのが実態であり、すなわち幼児に伝える伝え手が、残念ながら、現在では見出すことが難しいのではないかと懸念される。

ところで、TBSテレビ「はなまるマーケット」のスタッフの間で、いわゆる「かぞえうた」が関東出身者と関西出身者で異なっており、後者がほぼ同様であったのに対して、前者はバラバラであることが話題になった。そこで同番組では、特に「東京地方のかぞえうたを教えてほしい」旨の呼びかけを視聴者に行い、ファックスによる回答を募ったという。

(1999年8月12日)

かぞえうたはわらべうたの一種であり、子どもの遊びに伴って歌われてきたものである。その点で、それについて現在調べることは、伝承遊びがまさに伝承されてきた、あるいはされてこなかった実態を明らかにする一助になるものと考えられる。そこで、本研究では、番組スタッフの了解を得て、そのデータをもとにさらに調査を重ね、加えて幼稚園と保育所に勤務する保育者に対する同様の調査を行うことで、わらべうた、伝承遊びの伝承の実態、可能性を考察できるのではないかと考えた次第である。

## 2. 方法

本研究は、二段構えの調査研究となっている。第一に「はなまるマーケット」視聴者に対する調査であり、第二に幼稚園・保育所に勤務する保育者に対する調査である。

### (1) 「はなまるマーケット」に関わる調査

番組スタッフによる「東京地方のかぞえうたを教えて下さい」との呼びかけに対して寄せられたファ

ックスをもとにかぞえうたの内容を明らかにし、回答者に対する電話やファックス等による追跡調査を加えて、それを記憶した地方や状況を明らかにしようと試みた。

調査時期：1999年8月12日からほぼ2カ月

有効回答数：181

### (2) 保育者に対する調査

千葉県を中心とする全国の幼稚園と保育所に勤務する保育者に対して、「いちじく・にんじん…等のかぞえうたを知っているか、覚えた年齢はいくつか、誰から教わったか」等に関する質問紙調査を行った。

調査時期：2000年10月20日～11月19日

調査対象：幼稚園25園、保育所4園

(回収率92%、有効回答数233、有効回答率90%)

## 3. 結論

### (1) 「はなまるマーケット」に関わる調査

#### ① 回答のあったかぞえうた (%)

いち(いち)・に・さんまのしほ…	60.8	その他	9.4
いちじく・にんじん…	29.8	計	100.0

#### ② 覚えた地域 (%)

北海道地方	1.7
東北地方	0.6
関東甲信越地方	60.8
中部地方	9.4
関西・近畿地方	5.5
中国・四国地方	5.5
九州地方	1.7
不明	14.9
計	100.1

\*「東京地方の…」との呼びかけに関わらず、実際には全国から、かぞえうたの例が報告された。

#### ③ 回答者年齢 (%)

10代未満	1.7	60代	7.7
10代	23.2	70代	4.4
20代	12.2	80代	1.1
30代	19.3	90代	0.6
40代	6.6	不明	15.5
50代	7.7	計	100.0

地域というより年齢による違いが大きく、40歳代後半以降では「いちじく・にんじん・さんしょ・しいたけ…」が見られ、それより若い世代では「いち・に…」で始まるものがほとんどであった。また、若い層で知っている者は、年寄りから教わったという者がほとんどであった。

## (2) 保育者に対する調査

### ① 年齢 (%)

20代	15.7	50代	0.9
30代	73.3	60代	0.7
40代	9.4	計	100.0

平均保育者歴 6年

### ② 知っているか (%)

はい	61.4	いいえ	38.6
----	------	-----	------

### ③ 何から覚えたか (%)

テレビ	43.2	幼稚園	3.6
家族	22.1	小学校	3.6
友人	21.6	その他	0.9
保育園	5.0	計	100.0

かぞえうたを知っている保育者は、10年以上の保育者経験のある者の方が多い。知っている歌としては「いちじく・にんじん…」について「一本でもにんじん…」が多く、テレビの影響が大きいことがわかった。「いちじく・にんじん…」も、たいていの回答は「ごぼう」までで、6以降は覚えていない例が目立った。

かぞえうたを実際に保育に活用しているかどうかといえば、「取り入れていない」という者が36%おり、たとえ知ってはいても必ずしも保育に活かしていないことが明らかとなった。知らない者の場合、「覚える機会がなかった」「教えてくれる人がいなかった」「聞いたことがない」という回答が過半数を占め、他にも「聞いたのだろうか覚えていない」が10%いることから、結局のところ興味がなければ記憶に残らないともいえる。

## 4. 考察

予想通りのことではあったが、現在の子育て世代はかぞえうたをよく知らない。これは幼稚園や保育所の保育者も同じことであり、従って、子どもは家庭でも集団保育の場でもかぞえうたを教わることなく成長する可能性が大きい。一方、マスメディアの影響は極めて大きいといえ、たとえ知っていても、テレビから覚えた割合が大きい。若い保育者が知っ

ているかぞえうた「一本でもにんじん…」は、幼児向けテレビ番組「ひらけポンキッキ」(1973年放送開始、フジテレビ)で歌われていたことを想起すれば、このような事態は容易に理解できることと思う。

本研究ではかぞえうたを例にして調査したが、すでに述べた通り、より広くわらべうたでも同様の状況と判断でき、従って、それを伴ったはずの伝承遊びもますます行われなくなっていくことが予想される。しかし、遊びや歌の伝承が行われないことは、単に児童文化の衰退、もちろんそれ自体好ましくないものと考えられるが、それだけでは済まない不安を与えるものである。

遠野における阿部ヤエの業績に明らかのように、わらべうたには先祖から受け継がれた子育ての知恵、人の生き方に関する教えが多く含まれていたといわれる。本学会においても、そのような視点からわらべうたに関する考察がすでに行われているところである(尾見、2000年)。このように考えると、わらべうたを伝承できなくなってしまうことで、それらの知恵や教えもまた伝わらなくなってしまうことになる。現在失われつつあるわらべうたを掘り起こす試みが各地で行われているが、幼稚園や保育所の保育が実践的にそれとどのように結びつくか気になるところである。

## 5. 課題

伝承遊びに関していうならば、保育現場において独楽回しや羽子板は多少復活してきたような印象があるが、これらはかぞえうたを伴うものではない。幼稚園や保育所で一般に行われる遊びの中で、わらべうたを伴う可能性のあるものとしては、かろうじて縄跳びがあるくらいではなかろうか。しかし一方、わらべうたを意識的に保育に取り入れている保育現場も散見される場所であり、そのような現場において、子どもの発達に与える効果とは別に、それを通じて子育ての知恵等がどのように伝えられているのか、あるいはその可能性の探究を今後の課題としていきたいと思う。

## 【文献】

- 尾見敦子『「人育ての唄」としてのわらべうた—伝承の子育て文化に着目して—』日本保育学会第53回大会発表要旨集、2000年、pp.414-415  
 阿部ヤエ「人を育てる唄」エイデル研究所、1998年、同『呼びかけの唄』同、2000年